

III 波志江西宿遺跡出土の斧形石製模造品について

杉田 茂俊

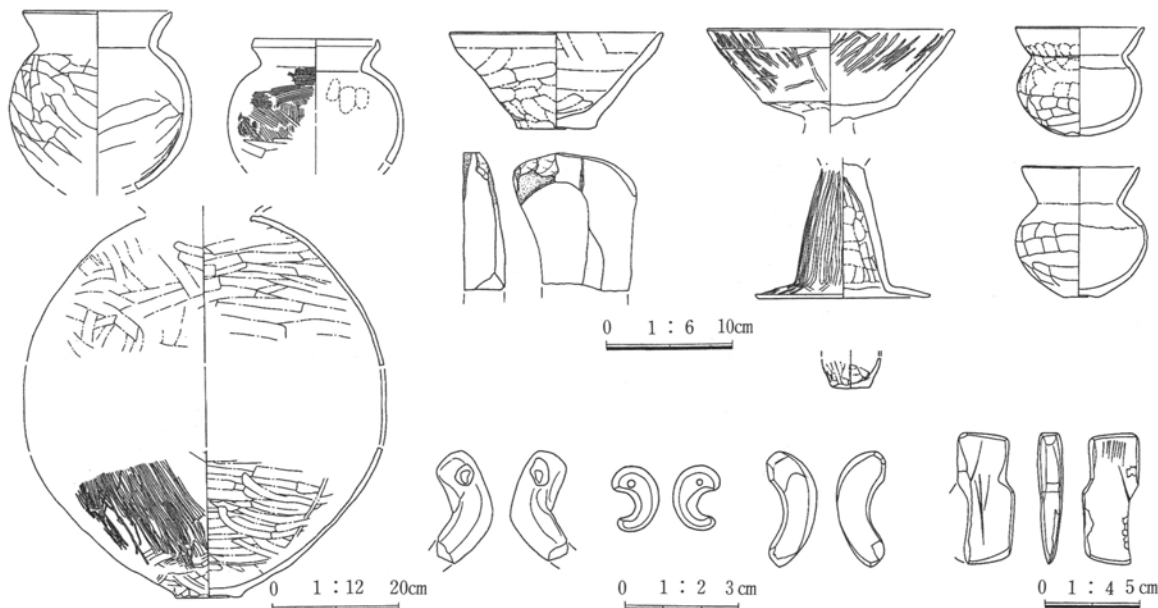
はじめに

波志江西宿遺跡(以下本遺跡)古墳時代住居跡からは、石製模造品が4点出土している。その内容は、斧形・剣形・勾玉形の3種類で、勾玉形の1点を除き未製品と思われる。剣形・勾玉形の石製模造品の出土例は、群馬県内を見ても数多くあるが、斧形石製模造品の出土例は、古墳出土のものを含めても十数例である。そこで本稿では、4世紀末から5世紀初頭の竪穴住居跡から出土した斧形石製模造品を取り上げ、既存の編年に対照させ、検討してみたい。

波志江西宿遺跡出土の斧形石製模造品

本遺跡B区1号住居跡は、竈を持たない住居跡で6.70m×6.99mのほぼ正方形を呈する。面積46.8㎡である。出土遺物は、単口縁甕、二重口縁壺、単口縁壺、高坏、小型壺、小型甕、鉢、有孔鉢、手捏土器、土製勾玉、斧形・勾玉形石製模造品(勾玉形1点を除き未製品)、砥石が出土する。高坏には、坏部内面に二次的な焼成によるものと思われる痕跡があり、器表面が激しく剝離するものもある。また、S字状口縁台付甕の胴部の小片も出土する。竈が無いことや出土遺物から、この住居跡は4世紀末から5世紀初頭に位置づけられると考える。

斧形石製模造品は未製品であり、出土位置は床面から6cmほど上である。石材は滑石質蛇紋岩で黒味をおびた青灰色を呈している。刃部の1/3が欠損している。刃先にわずかな面をとる。全長6.8cm、刃部の幅は残存で2.3cm、肩部は残存で2.7cm、袋部の長さは2.1cm、幅2.5cm、厚さ1.3cmを測る。袋部の断面は隅丸の長方形のような形を呈し、丸味は無く、平板な作りである。穿孔や袋部の合わせ目は認められない。表面・裏面ともに整形時の工具によるものと思われる縦位の線刻がある。おおまかに形を作ってから磨いているが、工具の痕跡がかなり残るので、雑な作りである。袋状の斧を模造するが、袋部は扁平化しているので実用品を忠実に模していない。また、刃部は1/3が欠損するが刃先の面を見ると、刃先の面を取った後から欠損した部



第212図 波志江西宿遺跡 B区1号住居出土遺物

分を磨いた痕跡があり、丸味がある。このことから刃部の欠損は、製作途中に欠損してしまったものと思われる。

群馬県内出土の斧形石製模造品

(1)上並榎南遺跡 高崎市

3号井戸覆土中より出土する。石臼等も一緒に出土している。

(2)本宿・郷土遺跡 富岡市

MT 9号溝跡より出土する。時期・石材が不明瞭のようで『古墳時代?、粘板岩?』と報告されているが、形状がはっきりしないので斧形石製模造品か疑問がある。

(3)内匠遺跡 富岡市

15号住居跡より出土する。竈をもつ竪穴住居である。出土遺物は甕、坏、鉢、斧形石製模造品などである。斧形石製模造品は2点で覆土中より出土している。2点とも滑石製、作りは粗雑で、袋部が無い。

(4)井出村東遺跡 群馬町

第28号住居址の覆土中より出土する。竈をもつ竪穴住居である。出土遺物は、坏、高坏と石製の斧形模造品と紡錘車である。斧形石製模造品は長さ3.5cm・幅0.6cm・重さ9.2gで石材は変玄武岩である。

(5)三ッ寺I遺跡 群馬町

豪族居館内より出土する。手斧を模したものが2点、表裏を平滑にして穿孔したものが3点である。青灰色の良質な原石を用いて丁寧な作りをしている。

(6)久保遺跡 富岡市

調査はされていないが、土地所有者により偶然発見された。刃部を片刃に表したものが4点、袋状の柄部を表したものが1点出土する。

(7)長者屋敷天王山古墳 高崎市

全長約50mの造り出し付円墳と思われる。時期は4世紀後半。主体部は不明である。石製模造品は刀子形2、斧形2、鑿形1、勾玉形10が出土する。石釧も伴出する。

(8)剣崎天神山古墳 高崎市

30mほどの円墳。時期は5世紀前半。主体部は不明である。鏡2面、埴1、杵1、槽1、琴柱形石製品、石製模造品が出土する。石製模造品は刀子形71、斧形1、鎌形1である。

(9)長瀬西古墳 高崎市

30mほどの円墳。時期は5世紀中葉～後半。主体部は竪穴式石槨。石製模造品は刀子形35、斧形4、鎌形3、勾玉形7、白玉形1612の石製模造品が出土する。その他、鏡が1面、甲冑が出土する。

(10)玉村町13号墳 玉村町

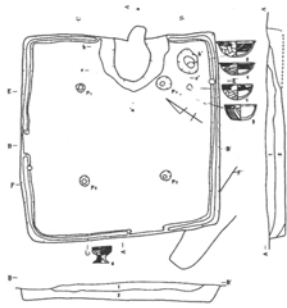
20mほどの円墳。時期は5世紀末前後。主体部は破壊されていて不明であるが、竪穴式石槨と思われる。斧形石製模造品1点が葺石を覆う土の中から出土する。

(11)舞台遺跡1号墳 前橋市

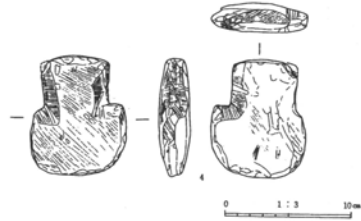
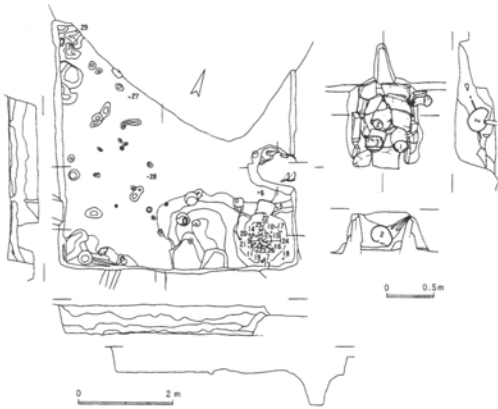
42mほどの帆立貝形古墳。時期は5世紀後半。主体部は竪穴系のものと推定される。石製模造品は刀子形67、斧形9、鎌形2、勾玉形1、白玉形203、有孔円板15が出土。石製模造品は、前方部に容器状のものに納めて土坑に埋められていた。その他、下駄2、鉄鏃5などが出土する。

(12)大山鬼塚古墳 甘楽町

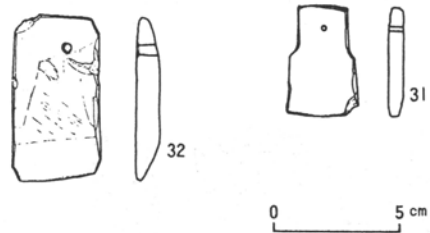
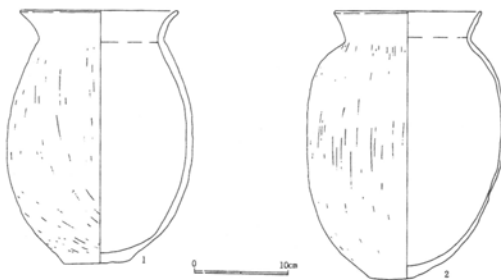
円墳であるが規模は不明である。時期は5世紀後半。主体部は舟形石槨。石製模造品は刀子形5、斧形3、



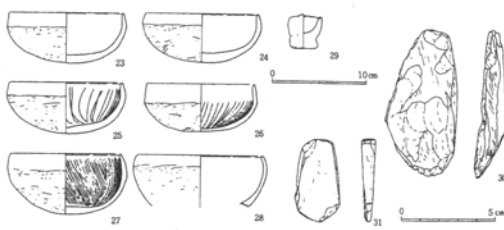
井出村東遺跡



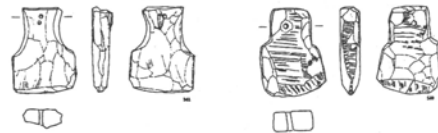
上並榎南遺跡



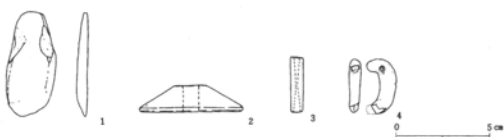
久保遺跡



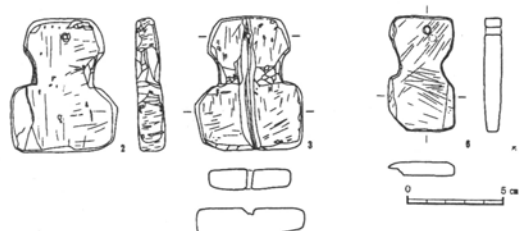
内匠遺跡



三ッ寺 I 遺跡

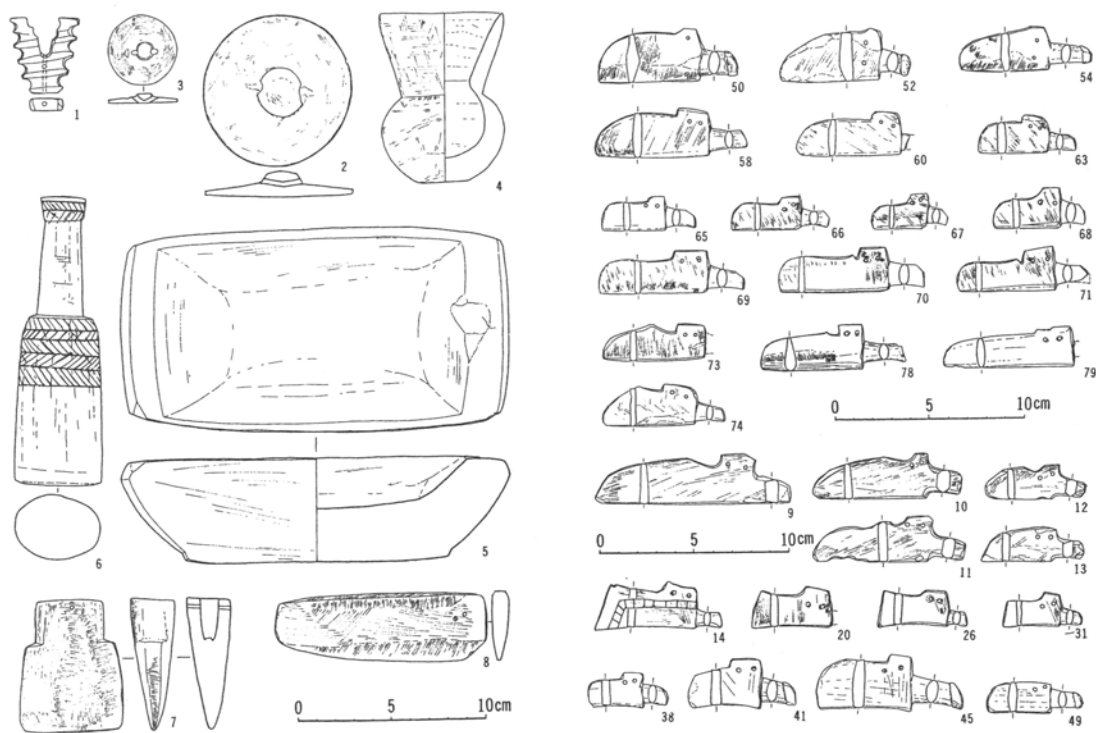


本宿・郷土遺跡

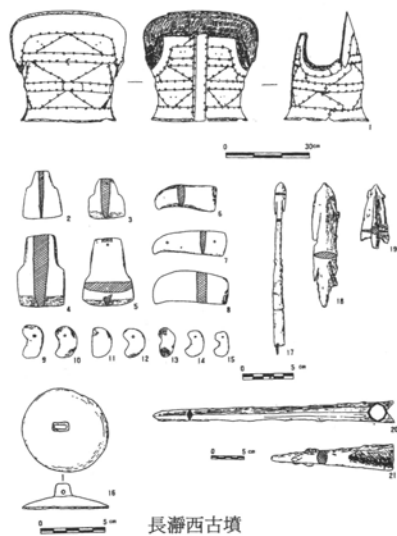


築瀬二子塚古墳

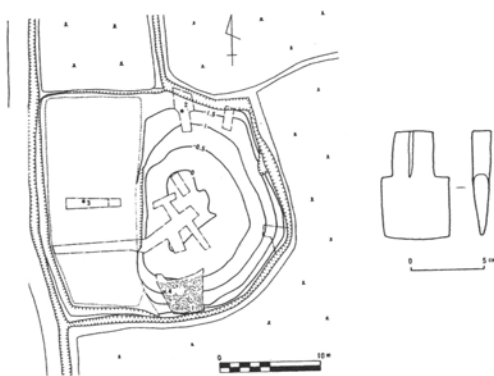
第213図 群馬県内出土斧形石製模造品(1)



剣崎天神山古墳



長瀬西古墳

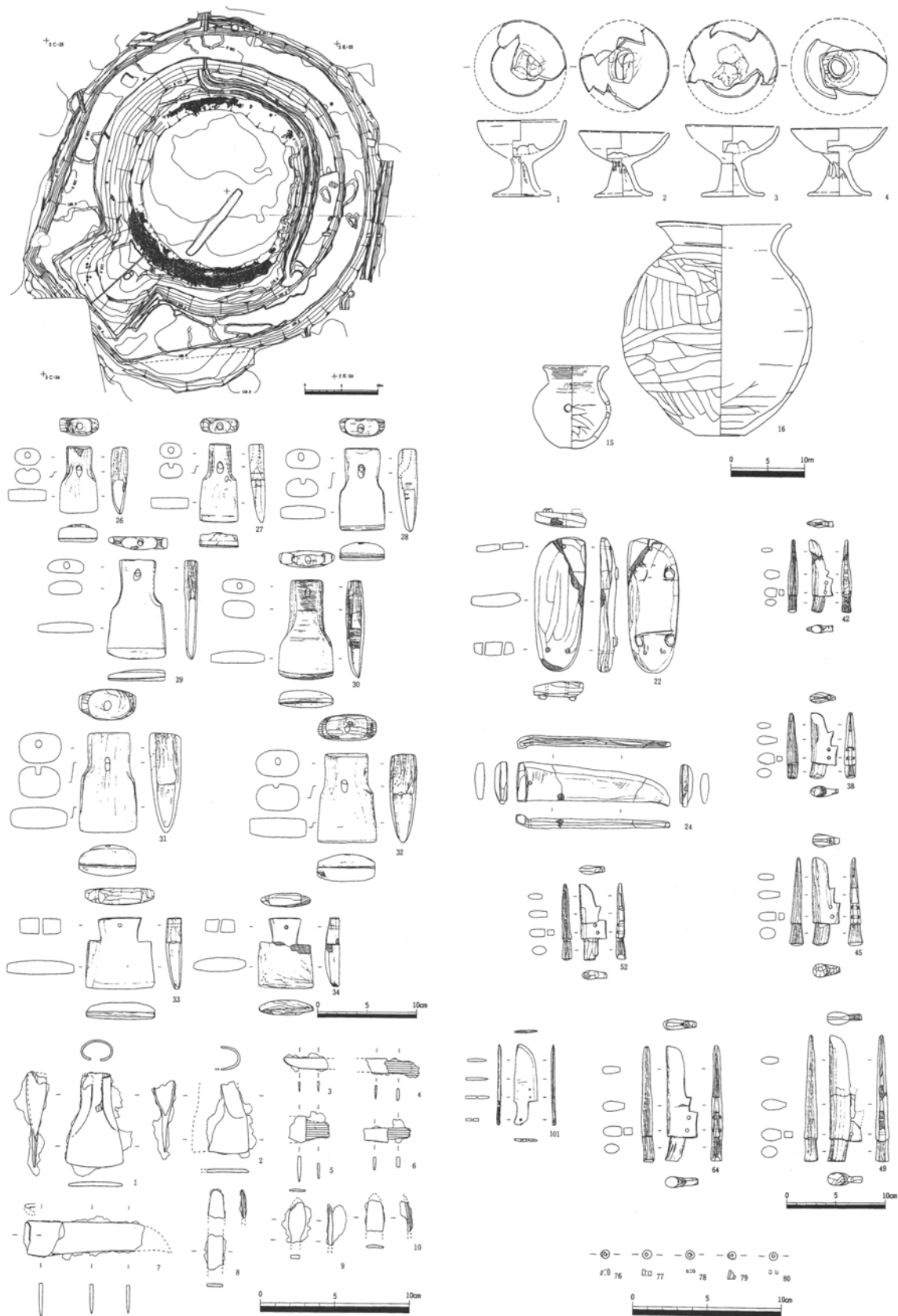


玉村町13号墳

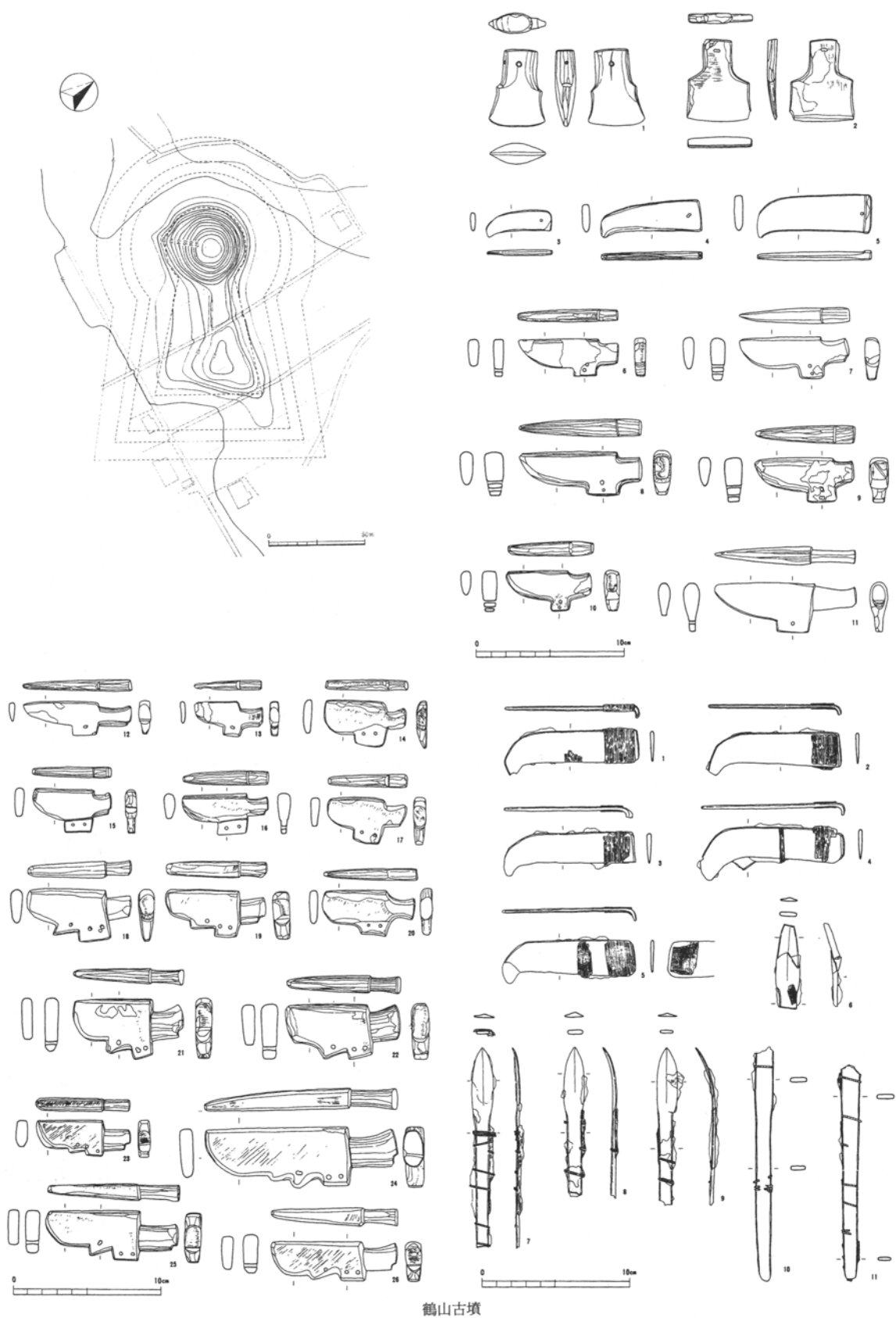


長者屋敷天王山古墳

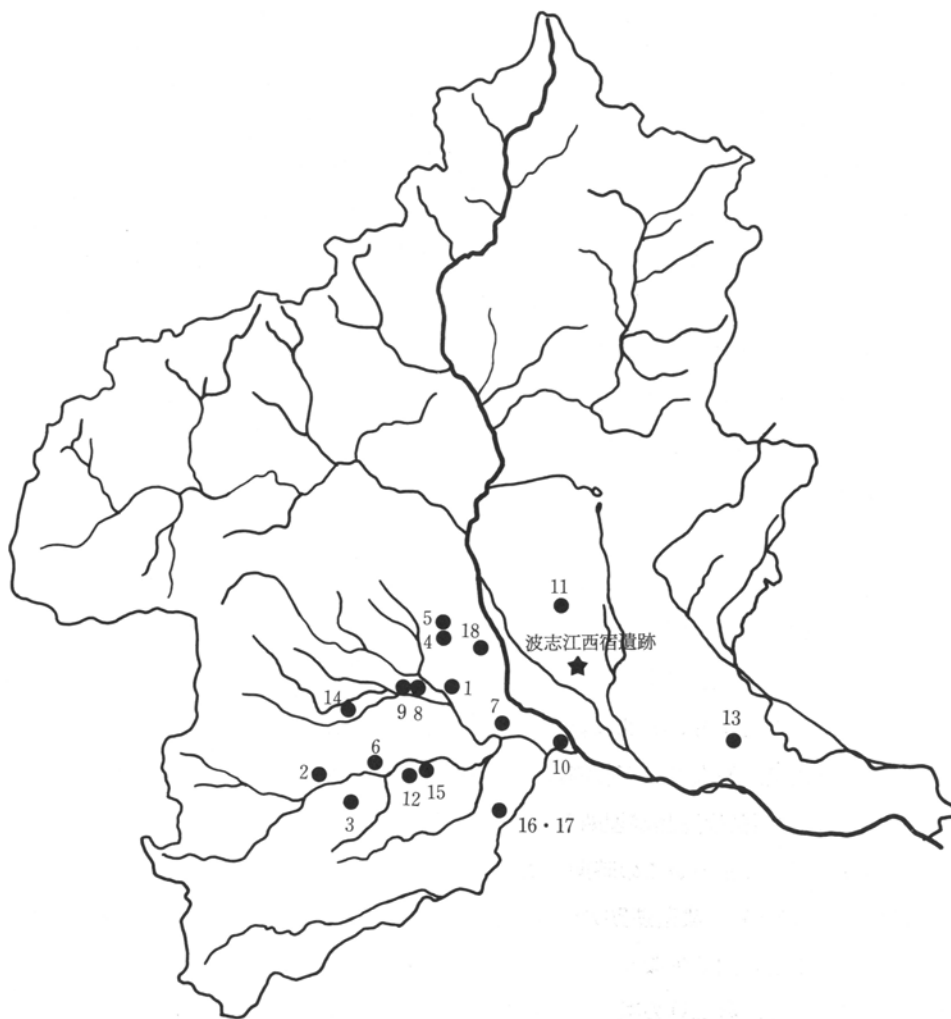
第214図 群馬県内出土斧形石製模造品(2)



第215図 群馬県内出土斧形石製模造品(3)



第216図 群馬県内出土斧形石製模造品(4)



第217図 群馬県内における斧形石製模造品の出土分布図

白玉形58が出土する。その他、鏡3面、管玉27が出土する。

(13) 鶴山古墳 太田市

全長102mの前方後円墳。時期は5世紀後半。主体部は竪穴式石室。石製模造品は刀子形21、斧形2、鑿形3が出土する。その他、甲冑等が良好に出土する。

(14) 築瀬二子塚古墳 安中市

石室内より3点出土する。刃部は肉厚で、刃先の表現を欠く。うち1点は背面の中心に縦方向の溝が刻まれている。この溝は刃部まで達している。

この他、未公開であるが吉井町の片山1号墳(15)。この古墳は4世紀末から5世紀初頭の時期で滑石製の石製模造品が出土する。藤岡市の神田で短冊形が1点、袋状のものが3点出土している(16)。伝藤岡市神田出土で袋状のものが1点ある(17)。前橋市総社町付近出土のもので短冊形が1点、袋状のものが4点ある(18)。

以上18が群馬県内で出土する斧形石製模造品の類例である。古墳が8例、豪族居館が1例、住居跡・遺構外が9例である。18例中、16例が現在の利根川より西の地域からの出土で、利根川より東は2例である。圧倒的に西部からの出土例が多い。これは、蛇紋岩・滑石・緑色片岩の産地である「三波川帯」がひかえていること、石製模造品製作址も石材の産地に近い鎭川・神流川地域に多く検出されていることから石製模造品

の中心が群馬県西部にあったからだと考える。また、群馬県東部の本遺跡を除く2例は、舞台遺跡1号墳、鶴山古墳といずれも古墳からの出土で時期は5世紀後半である。

遺構外のものを除けば、5世紀後半以降の時期のものが多く、4世紀末～5世紀前半の時期のものは少ない。本遺跡出土の斧形石製模造品は、4世紀末から5世紀初頭のもものと位置づける。5世紀前半までの例は、長者屋敷天王山古墳・剣崎天神山古墳・片山1号墳で(註1)、いずれも西毛地域で、古墳からの出土である。そして、長者屋敷天王山古墳・剣崎天神山古墳出土のものは袋部に丸味があり、ソケット状になっている。以上のように同時期の例で見れば、本遺跡例のみ未製品で作りは粗雑である。本遺跡と時期が近いと言われる吉井町の片山1号墳の斧形石製模造品の袋部は丸味があり、作りも本遺跡例より丁寧である(註1)。

既存の編年における本遺跡出土の斧形石製模造品

石製模造品の編年については、古墳から出土する石製模造品の編年を設定された白石太一郎氏のものと群馬県内の製作址より出土する土師器を用いて編年を試案した深澤敦仁氏のものにそれぞれ対照させたい。

○白石太一郎氏の編年

白石太一郎氏は石製模造品の古墳への埋納の編年について4期を設定された(註2)。1期は写実的な農工具が副葬される段階。2期は農工具に加えて勾玉や鏡などの模造品が多くなり、関東では酒造具、機織具、下駄等が加わる。1期に比べると形式化するものの、写実性は失われていない。群馬県内の古墳では剣崎天神山古墳がこの時期にあたるとする。3期は有孔円板、小形粗製剣形石製品が加わり、刀子形石製品では柄の短いものが主流になる段階。酒造具、下駄等はこの段階で消滅する。群馬県内では白石稲荷山古墳がこの時期にあたるとする。4期は石製模造品が埋納される最終段階で刀子形石製品が粗製化する時期としている。群馬県内の古墳では築瀬二子塚古墳がこの時期にあたるとする。

また、白石氏は関東地方の一般の集落遺跡の竪穴住居跡に滑石製の石製模造品がみられるようになるのは、和泉式の時期からで、前半期の例は少なく、一般化するのはその後半期からという。模造品の種類は剣、有孔円板、勾玉、白玉が中心で、農工具の類はほとんどみられないようで、集落内の一般の住居内での祭祀に石製模造品が用いられるのは、5世紀中葉から6世紀後半までで、その中心は5世紀後半から6世紀前半ということになると述べている。

古墳出土の例を用いての編年に住居出土の例を当てはめることは難があるかもしれないが、本遺跡出土のものは、白石氏の編年に当てはめると勾玉形石製模造品(未製品)が共伴することから2期に当たると考える。白石氏が述べるように集落内の住居跡で石製模造品を用いることが一般化するのは、5世紀中葉からということ鬼高期以降の住居跡のかまど付近から白玉等が出土する例が多いことから裏付けられる。斧形石製模造品も井出村東遺跡、内匠遺跡の住居跡から出土するが、いずれも鬼高期の住居跡である。4世紀末から5世紀初頭の斧形石製模造品出土例を見ると、長者屋敷天王山古墳・剣崎天神山古墳・片山1号墳と古墳からの出土で、住居跡出土のものは現在のところ本遺跡例のみである。白石氏も古墳への埋納は4世紀末から5世紀初頭の段階では行われているが、集落内より石製模造品が出土するのは5世紀中葉からみられるとしている。

○深澤敦仁氏の編年

深澤氏は、群馬県西部の製作址において共伴する土師器を用いてⅠ～Ⅵ段階を設定された(註3)。Ⅰ段階はS字状口縁台付甕、前期東海西部系大型高坏を主体とする古墳時代前期的土器相。この段階では、製作品は管玉を主として、琴柱形石製品・勾玉で、石材は蛇紋岩が圧倒的主体で珪質頁岩・緑色凝灰岩を用いる。製作址の分布は烏川流域に集中し、鎗川流域に存在しない。Ⅱ段階は古墳時代前期末から中期初頭と呼ばれ

ている土器相。石材・製作址の分布はⅠ段階とほぼ同じ状況。ただし、遺跡数が少ないので根拠に乏しい。Ⅲ段階はいわゆる和泉式的土器相。この段階の製作品は、管玉・勾玉・白玉・剣形・有孔円板・紡錘車で、製作の主体は白玉である。石材は蛇紋岩が主体で、わずかに滑石が含まれる。製作地も鎭川流域に集中する。Ⅳ段階は胴部が球形の単口縁平底甕、有稜の長脚高坏、多様な坏等の組み合わせとなる段階。管玉・勾玉・白玉・剣形・紡錘車等が製作され、その主体は白玉・剣形である。石材は蛇紋岩と滑石が使われるが、滑石の割合が増加する。製作地の分布は鎭川流域に集中する。Ⅴ段階は胴部が球形の単口縁平底甕に胴部が長胴化した単口縁平底甕が加わり、高坏も有稜の長脚高坏に鉢形と柱状で裾部との境が屈折する脚をもつ高坏、須恵器坏蓋模倣坏を坏にもつ高坏が加わる。その他に多様な坏の組み合わせとなる段階。この段階の製作品は、管玉・白玉・紡錘車等である。石材・製作地の分布はⅣ段階とほぼ同じ状況である。Ⅵ段階は胴部が長胴化した単口縁平底甕、須恵器坏蓋模倣坏、浅い坏と長脚の高坏の組み合わせとなる段階。この段階から須恵器が積極的に参画してくる動きが見られる。この段階の製作品は、管玉・勾玉・白玉・剣形・有孔円板・紡錘車がある。製作の主体は圧倒的に白玉である。石材は滑石が圧倒的主体で、蛇紋岩は皆無、あるいは極めて微量である。製作地の分布は、鎭川流域・烏川流域・群馬県東部にまで広がる。Ⅰ～Ⅵ段階の製作址の数に着目すると、Ⅰ・Ⅱ段階は検出例は少なく、Ⅲ段階以降に検出例が増加する。

本遺跡、B区1号住居跡の出土遺物は、胴部外面がヘラケズリの単口縁平底甕とハケ調整を施した単口縁平底甕、S字状口縁台付甕の小片、有稜の坏と長い柱状でやや裾広がり脚をもつ高坏等である。斧形石製模造品の石材は、滑石質蛇紋岩である。これを深澤氏の編年に当てはめるとⅡ～Ⅲ期に該当すると考える。

まとめ

現在のところ、群馬県内で斧形石製模造品が出土した例は18例と少ない。群馬県東部となると本遺跡例を含めて3例である。本遺跡以外では、舞台遺跡1号墳、鶴山古墳からの出土で、古墳の時期は5世紀後半と考えられている。本遺跡の斧形石製模造品は、共伴する土師器より4世紀末から5世紀初頭の時期と考える。そして、白石氏の編年では2期、深澤氏の編年ではⅡからⅢ段階に当てはまり、石製模造品が集落において一般化する初期の段階のものとする。

また、群馬県内で本遺跡例と近い時期と考えられる類例は古墳出土のものが多く、作りも丁寧である。それとは対照的に、本遺跡例は扁平で作りは粗雑である。このことから、石製模造品の作りが丁寧であるから時期が古い、あるいは粗雑であるから時期が新しいということは、一概に判断できないと考える。最後に本遺跡出土の斧形石製模造品に関して仮説を提示して今後の課題としたい。

古墳からの出土が主体となる斧形石製模造品が住居跡から出土することは、どのような意味を持つのか。群馬県内で検出された製作址からの斧形石製模造品出土例は現在のところ無い(註4)。古墳から出土するようなものが住居跡から出土するということは、本遺跡集落の集団が古墳の造営や副葬品を納めることに何らかの関わりを持つ集団であったのではないかとすることを現段階では仮説として考えている。

本稿を作成するにあたり石塚久則氏、大木紳一郎氏、徳江秀夫氏、加部二生氏、深澤敦仁氏には多大なご助言、ご指導をいただいた。記して感謝する次第である。また、先学諸氏には敬意を表し、筆者の力量不足による誤解、曲解の点はお叱責、ご批判いただければ幸いである。

<註>

註1 加部二生氏の御教示。

註2 白石太郎 1985 「神まつりと古墳の祭祀ー古墳出土の石製模造品を中心としてー」『国立歴史民俗博物館研究報告第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本篇』

註3 深澤敦仁 2001 「群馬県の石製品・石製模造品製作址について」 『考古聚英 梅澤重昭先生退官記念論文集』

註4 深澤敦仁氏の御教示。

<参考文献>

群馬県史編さん委員会 1981 『群馬県史 資料編3』

石川正之助・右島和夫 1986 「鶴山古墳出土遺物の基礎調査Ⅰ」 『群馬県立歴史博物館調査報告書第2集』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985 『上並榎南遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『年報18』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『年報19』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『三ッ寺Ⅰ遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 『下佐野遺跡Ⅱ地区(1)縄文時代・古墳時代編』

群馬町井出村東遺跡調査会 1983 『井出村東遺跡』

富岡市市史編さん委員会 1987 『富岡市史 自然編 原始・古代・中世編』

富岡市教育委員会 1981 『本宿・郷土遺跡』

富岡市教育委員会 1982 『内匠遺跡』

安中市市史刊行委員会 2001 『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』

東京国立博物館 1983 『東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇(関東Ⅱ)』

群馬県教育委員会 1990 『舞台・西大室丸山』

右島和夫・徳田誠志 1998 「東国における石製模造品出土古墳—高崎一号墳の基礎調査から—」 『高崎市史研究9』

白石太一郎 1985 「神まつりと古墳の祭祀—古墳出土の石製模造品を中心として—」 『国立歴史民俗博物館研究報告第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本篇』

第8回東日本埋蔵文化財研究会 1998 『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』

第2回東日本埋蔵文化財研究会 1993 『古墳時代の祭祀 第Ⅱ分冊—東日本編Ⅱ』

女屋和志雄 1988 「群馬県における古墳時代の玉作」 『群馬の考古学』

女屋和志雄 1997 「鐙川流域の古墳時代玉作」 『緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

外山和夫 1976 「石製模造品類を出土した高崎市剣崎天神山古墳をめぐる」 『考古学雑誌』

深澤敦仁 2001 「群馬県の石製品・石製模造品製作址について」 『考古聚英 梅澤重昭先生退官記念論文集』

白石太一郎 2001 『日本史リブレット4 古墳とその時代』